Canon

470EX-AI





はじめに

キヤノンスピードライト470EX-AI は、E-TTL II/E-TTL自動調光に対応したEOS用外部ストロボです。カメラのアクセサリーシューに取り付けて使用するクリップオンストロボ(通常撮影)、光通信ワイヤレスストロボ撮影時のレシーバーストロボの機能を備えています。なお、通常撮影時は、AI バウンス撮影を行うことができます。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』(8~9ページ)をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

カメラの使用説明書もあわせてお読みください

で使用になる前に、本書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

カメラとの組み合わせについて

- EOSデジタルカメラ(Aタイプカメラ)との組み合わせ 「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御による ストロボ撮影を行うことができます。
- EOSフィルムカメラとの組み合わせ
 - E-TTL II/E-TTL自動調光方式のカメラ(Aタイプカメラ) 「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるストロボ撮影を行うことができます。
 - ◆ TTL自動調光方式のカメラ (Bタイプカメラ)1 10ページを参照してください。
- * 本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。

章目次

	はじめに	2
1	撮影前の準備と簡単な撮影 ストロボ撮影の準備と基本的なストロボ撮影	17
2	ストロボ撮影応用編 ストロボの機能を活用した応用的なストロボ撮影	29
3	バウンス撮影 AIバウンス機能や、バウンスアダプターを使ったストロボ撮影	41
4	カメラ操作によるストロボの機能設定 カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法	65
5	光通信ワイヤレスストロボ撮影 光通信によるワイヤレス(レシーバー)ストロボ撮影	71
6	ストロボのカスタマイズ カスタム機能、パーソナル機能によるカスタマイズ	81
7	資料 システム図、よくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせ	93

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

ご選択ダイヤルを示しています。

〈ZOOM〉 **〈MODE**〉 : 〈�〉 十字キーの上下左右ボタンを示しています。

⟨✝┻⟩ ⟨₺⟩

● : 選択/設定ボタンを示しています。

⑤12 / **⑤16** :操作ボタンから指を離したあと、ボタンを押した状態

が約12秒/16秒間保持されることを示しています。

(p.**) : 参照ページを示しています。

います。

: 補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- ストロボをカメラに取り付けた状態で、ともに電源が入っていることを 前提に説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、ストロボとカメラに使われている絵文字を使用しています。
- 機能を設定するときの選択操作は、〈◎〉を回して選ぶ操作を基本に説明しています。〈◆〉十字キーの上下左右(〈ZOOM〉〈MODE〉〈◆◆〉〈図〉ボタン〉を押して選ぶこともできます。
- 〈**与**〉ボタンを押すと前の画面に戻ります。
- ストロボのカスタム機能/パーソナル機能、カメラのメニュー機能/カスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 発光回数などの各種数値は、単3形アルカリ乾電池を4本使用し、当社試験基準で測定した値です。

◆ 本書では、従来の「マスター」「スレーブ」の表記から、それぞれ「センダー」 「レシーバー」の表記に変更しています。必要に応じて読み替えてお使いください。

目 次

	はじめに 2
	章目次
1	撮影前の準備と簡単な撮影 17
	電池を入れる 18 カメラに取り付ける/取り外す 20 電源を入れる 21 ETTL: 全自動ストロボ撮影 24 撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影 25
2	ストロボ撮影応用編 29
	22 調光補正 30 FEL: FE ロック 31
	ヘ [*] 口 小 政 足 7 別 対 1 し 4 U

3	バウンス撮影 41
	AIB AIバウンスについて42
	ALB: Al.B フルオートについて46
	ALBF Al.B フルオート撮影
	ALB-S Al.B セミオート撮影56
	📬 手動バウンス撮影61
	洋 収 バウンスアダプターを併用する63
4	カメラ操作によるストロボの機能設定 65
	カメラのメニュー画面からのストロボ制御66
5	光通信ワイヤレスストロボ撮影 71
	✔ 光通信ワイヤレスストロボ撮影72
	ワイヤレス設定74
	ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影76
	■■■■ レシーバーで設定するマニュアル発光79
6	ストロボのカスタマイズ 81
	C.Fn / P.Fn: カスタム/パーソナル機能の設定方法82
	C.Fn: カスタム機能で変更できる内容85
	P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容88
7	資料 93
	470EX-AIのシステム94
	🌂 温度上昇による発光制限について96
	故障かな?と思ったら98
	主な仕様105
	B タイプカメラとの組み合わせ110
	索 引113

機能目次

オートパワーオフ

●FEロック

後幕シンクロ

AF補助光

■モデリング発光

ハイスピードシンクロ

雷源 照射角 p.34 ・ワイドパネル ●雷池 p.18 35.a 🔶

設定初期化 p.40 ●発光間隔/回数 p.18 ストロボ機能設定 ■電源ON/OFF ⇒ p.21 **3.65** 発光制限 9e.a 🔶 充電完了 p.21

■Bタイプカメラ p.110 ●クイック発光 ⇒ p.21

p.22 バウンス撮影 ■AI.Bフルオート 操作

■取り付け/取り外し AI.Bセミオート p.45 p.20 ●手動バウンス p.61 p.22 ●ロック機能 バウンスアダプター ●表示パネル照明 3.63 🔶 p.22

光通信ワイヤレス撮影 通常撮影

●E-TTL自動調光 p.76 ●E-TTL自動調光 p.24 ⇒ p.75 メモリー機能 撮影モード別自動調光 p.25

■単独レシーバー p.79 マニュアル発光 p.36

ストロボメータード カスタマイズ マニュアル p.37 カスタム機能(C.Fn) 28.a 🔶

●TTL自動調光 p.110 ●パーソナル機能(P.Fn) → p.88

機能 ●一括解除 p.84 ■調光補正 p.30

p.31

⇒ p.32

p.33

p.38

p.27

p.43

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い 上げ販売店にご連絡ください。

★ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

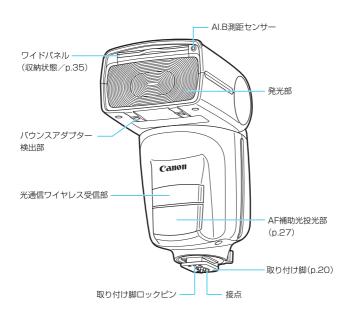
- 発火、発熱、感電、破裂、液漏れの原因になりますので次のことは行わないでください。
 - ・本体・付属品・接続ケーブルなどの接点部に金属を差し込むこと。
 - 指定以外の電池や変形または改造した電池を使用すること。
 - ・本体または電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中投入、水中投入、強い衝撃を与えること。
 - ・電池の+-を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の異なる電池の混用。
- 可燃性ガスのある所で使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
- 車の運転者などに向けてストロボを発光しないでください。事故の原因になります。
- 分解、改造をしないでください。内部には高電圧回路が含まれており、感電の危険があります。
- 落下などにより機器内部が露出したときは、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 湿気やほこり、油煙の多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因になります。
- 飛行機内や病院で使用するときは、航空会社や病院の指示に従ってください。本製品が出す電磁波が、計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い、液漏れ、変色、変形などの異常が発生したときは、やけどに十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、やけどの原因になります。
- 電池や付属品は、お子様や幼児の手の届かない所に置いてください。万一飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。電池の液で胃腸が冒される恐れがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属など の異物が入ったときは、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、やけどの原 因になります。
- 製品を布でおおったり、包んで使用しないでください。本製品が発熱し、火災の原因になります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってコードやストラップを首に巻き付けて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。

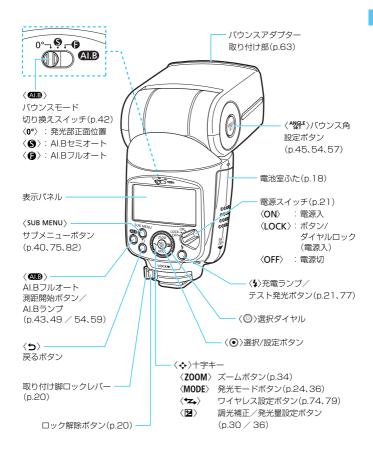
- 本製品を使用しないときは、電池を取り出し、電源パックやコードを取り外して保管してください。感電、発火、発熱、汚損の原因になります。
- 電池の液が目に入らないように、また皮膚や衣服に付かないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こしたり、衣服が汚損する恐れがあります。電池の液が目に入ったり、皮膚に付いたときは、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 本製品を拭くときは、シンナーやベンジンなどの有機溶剤を使わないでください。 火災や健康障害の原因になります。

★ 注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 本製品を長期間使用しないときは、電池を抜いて保管してください。故障、汚損の 原因になることがあります。
- 電池を廃却するときは、接点をテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と 混ざると発火、破裂の原因になることがあります。
- 直射日光下の車中、高温状態の車中や熱いものの近くで使用、保管、放置しないでください。製品自体が高温になり、触るとやけどの原因になることがあります。また、電池の発熱、破裂、液漏れなどの原因になることがあります。
- 発光部を人や物に密着させて発光させないでください。やけど、発火の原因になることがあります。
- AIバウンス撮影を行う前に、周りの人に必ず注意を促してください。発光部が自動的に動いて、急に発光することがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 本製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけが の原因になることがあります。
- 温度が高くなる部分に直接触れないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。
- 連続発光後に電池を交換すると、電池が熱くなっていることがあります。やけどの 原因となりますので、電池交換の際は注意してください。

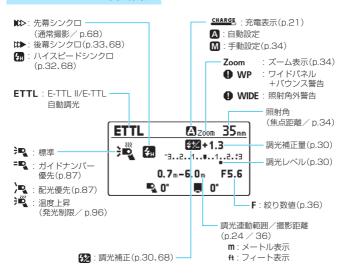
各部の名称





表示パネル

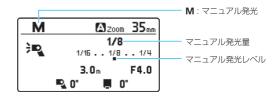
E-TTL II/E-TTL自動調光 (p.24)





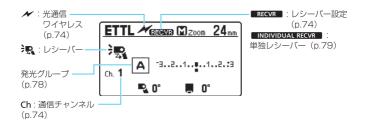
- 画面は表示例です。設定に応じた部分のみ表示されます。
- ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます(p.22)。

マニュアル発光 (p.36)

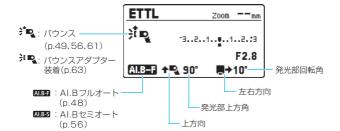


光通信ワイヤレス撮影 (p.71)

レシーバーストロボ



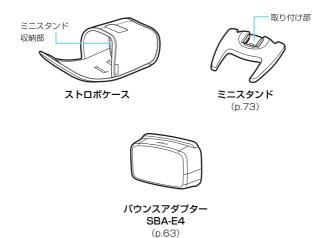
バウンス表示関連 (p.41)





- 発光部の回転角は5°刻みで表示されます。
 - ALB フルオート撮影時に、カメラが横位置のときは、上方向のバウンス角は 180°まで表示されます。

付属アクセサリー



撮影前の準備と簡単な撮影

この章では、ストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

↓ 連続発光に関するご注意

- 週熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続フル発光は30回までにしてください。連続フル発光を30回行ったときは、10分以上休止してください。
- 上記回数の連続フル発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。 発光制限レベル1のときは、発光間隔が強制的に約8秒になります。 そのときは40分以上休止してください。
- 詳しい内容については、96ページ「温度上昇による発光制限について」を参照してください。
- ↓ バウンス撮影を行わないときは、〈▲B〉、バウンスモード切り換えス イッチを〈o²〉の位置にしてください(p.11)。なお、バウンス撮影 については、3章『バウンス撮影』を参照してください(p.41)。

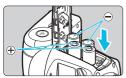
電池を入れる

電源には単3形電池4本を使用します。



√ ふたを開ける

電池室ふたを下にスライドさせて、電池 室ふたを開きます。



) 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちが えないように電池を入れます。
- 電池室内の側面に付いている溝は、「一」 を表しています。暗い場所で電池を交換 するときに便利です。



🤾 ふたを閉める

手順1と逆の操作で、電池室ふたを閉じて、上にスライドさせます。

発光間隔と発光回数

発光間隔		発光回数	
クイック発光	通常発光	光兀凹釵	
約0.1~3.9秒	約0.1~5.5秒	約115~800回	

- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。
- クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です(p.21)。

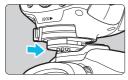
⚠ 注意

- 「単3形リチウム電池」は使用しないでください。
 - 一部の「単3形リチウム電池」を使用した際に、まれに電池が非常に高温になる ことがあります。お客様の安全のため、「単3形リチウム電池」の使用はお控え ください。
- **連続発光を行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。** ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったとき は、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付 近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。 熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温 やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の 悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- ♪ アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、 電池の種類により接触不良を起こすことがあります。



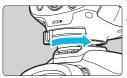
- 🖥 🥚 〈🖎)が表示されたときや、充電中に表示パネルの表示が消えてしまうとき は、新しい雷池に交換してください。
 - 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本 同時に行ってください。
 - 単3形ニッケル水素電池も使用できます。

カメラに取り付ける/取り外す



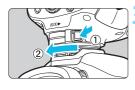
1 取り付ける

ストロボの取り付け脚がアクセサリーシューの奥に突き当たるまで、差し込みます。



) 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
- →「カチッ」と音がしてロックされます。



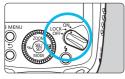
取り外す

ロック解除ボタンを押しながら、ロック レバーを左方向にスライドさせて、カメ ラから取り外します。



ストロボの取り付け/取り外しは、必ずストロボの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる





充電ランプ (テスト発光ボタン)

゙ 電源スイッチを〈ON〉にする

- 充電が始まります。
- → 充電中は表示パネルに〈SHARGE〉が表示されます。充電が完了すると表示が消えます。

充電を確認する

- 充電ランプの状態が、消灯→緑色(クイック発光可能)→赤色(フル充電)の順に変わります。
- テスト発光ボタン(充電ランプ)を押すと、テスト発光を行うことができます。

クイック発光機能について

クイック発光は、充電ランプが緑色の状態で(フル充電前に)ストロボ撮影ができる機能です。カメラのドライブモードの設定に関わらず機能します。発光量はフル発光時の約1/2~1/6になりますが、発光間隔を短くしたいときに有効です。

マニュアル発光時は、発光量が1/4~1/128に設定されているときに機能します。なお、光通信ワイヤレス撮影時のレシーバーストロボのときは、クイック発光できません。



- 電源を入れたときに発光部が自動的に動く(回転する)ことがあります。
- 連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。
- カメラの参4/参6/参8/参10/参16タイマーが働いているときは、テスト発光できません。

オートパワーオフ機能について

電池の消耗を防ぐため、約90秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン(充電ランプ)を押します。

なお、光通信ワイヤレス撮影時のレシーバーストロボ (p.72) のときは、オートパワーオフまでの時間が約60分になります。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉位置にすると、ストロボのボタンやダイヤル操作を禁止することができます(〈ALB〉スイッチ操作を除く)。ストロボの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。

ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈LOCKED〉が表示されます。

表示パネル照明について

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが約12秒間照明されます(**治12**)。

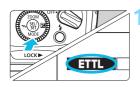
通常のストロボ撮影のときは、緑色に照明されます。なお、光通信ワイヤレス撮影時のレシーバーストロボのときは、オレンジ色に照明されます。



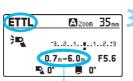
- 🖥 🔵 ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。なお、電池交換 時に設定状態を保持したいときは、電源を切ってから電池を交換してくださ い。
 - 電源スイッチが〈LOCK〉位置でもテスト発光を行うことができます。また、 ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルの照明が行われます。
 - オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます(C.Fn-01/ p.85)。
 - レシーバー設定時にオートパワーオフまでの時間を変更することができます。 (C.Fn-10/p.86)。
 - 表示パネル照明の設定を変更することができます(C.Fn-22/p.87)。
 - 表示パネル照明の色を変更することができます(P.Fn-02、03/p.88)。
 - クイック発光を禁止することができます(P.Fn-05/p.89)。

ETTL: 全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈**P**〉(プログラムAE)、または「全自動」に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。



60 5.63-4-4-4-23 iso400 (99)●



調光連動範囲

発光モードを〈ETTL〉にする

- ◆ \ 十字キーの〈MODE〉ボタンを押します。
- ◇ ◇ を回して〈 ■III 〉 を選び、〈 ⑥ 〉 を押します。

ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- → ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内に〈\$〉が点灯している ことを確認します。

撮影する

- 被写体が調光連動範囲に入っていることを確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影が行われます。



- 撮影画像を確認して被写体が暗い(露出アンダーの)ときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。
- 「全自動」は〈**広** 〉〈□〉〈**四**〉 の撮影モードのことです。
- E-TTL II対応のカメラに取り付けたときも、表示パネルには〈ETTL〉と表示されます。

撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈**Tv**〉(シャッター優先AE)、〈**Av**〉(絞り優先AE)、〈**M**〉(マニュアル露出)に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じたF-TTL II/F-TTL自動調光撮影を行うことができます。

任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。

設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で標準露出となる絞り 数値が自動設定されます。

Τv

絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバー になります。絞り数値が点灯するようにシャッター速度を変更し てください。

任意の絞り数値を設定したいときに選択します。

設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター 速度が自動設定されます。

暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる「スローシンクロ撮影」になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出になります。

Αv

- 暗い場所ではシャッター速度が遅くなるため、三脚を使用して撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、または 露出オーバーになります。シャッター速度が点灯するように絞り 数値を変更してください。

M 主被写体はストロボ光で標準露出になります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

◆〈DEP〉〈ADEP〉で撮影したときは、〈P〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

	シャッター速度	絞り数値
Р	自動設定(1/X~1/60秒)	自動設定
Τv	手動設定(1/X~30秒)	自動設定
Αv	自動設定(1/X~30秒)	手動設定
М	手動設定(1/X~30秒、Bulb)	手動設定

● 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

画面サイズ対応自動ズームについて

EOSデジタルカメラには3種類の画面サイズがあり、装着したレンズの 有効撮影画角は画面サイズによって異なります。本機では各EOSデジタル カメラの画面サイズを自動認識して、24~105mmの範囲でレンズの有効 撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOSデジタルカメラに伝えることで、ス トロボ光の色温度に応じてホワイトバランスを調整する機能です。カメラの ホワイトバランスが、〈AWB〉〈AWBw〉〈4〉のときに自動的に働きます。

対応カメラについては、カメラ使用説明書の「主な仕様」を参照してくだ さい。

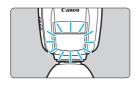
バウンス機能について

3章『バウンス撮影』(p.41~64) を参照してください。



面以外の方向に向いているときは、〈ALB〉 ランプが点滅します。シャッターボ タンを半押しすると、発光部が自動的に正面の位置に戻ります(〈ALB〉) ランプ が消灯します)。

AF補助光について



ファインダー撮影時に暗い場所でピント 合わせを行ったときや、被写体のコントラ ストが低いときなど、AFでピントが合いに くいときは、AFによるピント合わせを補助 するため、ストロボに内蔵された赤外光方 式のAF補助光が自動的に光ります。

なお、AF補助光は多くのEOSカメラのAFフレームに対応しています。AF 補助光の対応画角は、レンズ焦点距離28mm以上、有効距離はファインダー 内中央:約0.7~10m/周辺(中央以外):約1~5mです(焦点距離28mm 時)。



↓ カメラで外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角/望遠レンズを使用し ているときは、FOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあり ます。そのときは、中央AFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してく ださい。



- ライブビュー撮影時にAF方式が [クイックAF] [クイックモード] に設定されてい るときも、AF補助光が投光されます。
 - AF補助光の投光を禁止することができます(C.Fn-08/p.86)。
 - ストロボ間欠発光方式の AF 補助光を投光することができます(P.Fn-04 / p.89).

ストロボ撮影応用編

この章では、ストロボの機能を活用した応用的な撮影方法につ いて説明しています。



- ❶ カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのとき は、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈P/Tv/ Av/M/bulb(B)〉(応用撮影ゾーン)にしてください。
 - バウンス撮影を行わないときは、〈ALB〉バウンスモード切り換え スイッチを〈**0°**〉の位置にしてください(p.11)。なお、バウン ス撮影については、3章『バウンス撮影』を参照してください $(p.41)_{\circ}$

② 調光補正

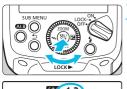
露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

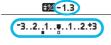






- (♠) 十字キーの(図) ボタンを押します。
- ◇ ◇ を押して 〈 ③ 〉を回して、調光 補正の項目を選ぶこともできます。





補正量を設定する

- ◇ ◇ を回して補正量を設定し、〈 ◆ 〉 を押します。
- 補下量が設定されます。
- [0.3] は1/3段、[0.7] は2/3段です。
- 調光補正を解除するときは、補正量を 「±0」に戻します。



- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナ ス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- ストロボとカメラの両方で調光補正を行ったときは、ストロボ側の設定が優先されます。
- 〈◆〉十字キーの〈図〉ボタンを押さずに、直接〈◎〉を回して調光補正量を設定することができます(C.Fn-13/p.86)。

FEL: **FE ロック**

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させ るストロボ撮影です。

表示パネルに〈ETTL〉が表示されている状態で、カメラの〈M-Fn〉ボ タンを押します。 $\langle \mathbf{M}\text{-Fn} \rangle$ ボタンのないカメラは、 $\langle \mathbf{X} \rangle$ (AEロック) ま たは〈FEL〉ボタンを押します。



被写体にピントを合わせる



〈M-Fn〉ボタンを押す(516)

- 被写体をファインダーの中央に置いて カメラの〈M-Fn〉ボタンを押します。
- → ストロボがプリ発光し、被写体に必要な 発光量が記憶されます。
- → ファインダー内に「FEL」が約0.5秒間 表示されます。
- 〈M-Fn〉ボタンを押すたびにプリ発光 し、そのときに必要な発光量が記憶され ます。



- ♠ FF ロックを行ったときに適切な露出が得られないときは、ファインダー内の 〈4〉が点滅します。被写体に近づくか絞りを聞いて、再度FFロックを行って ください。デジタルカメラでは、ISQ感度を上げて再度FFロックを行うこと もできます。
 - ファインダーの視野に対して被写体が小さいときは、FFロックの効果が得ら れないことがあります。

彌 ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ機能を使用すると、ストロボ同調最高シャッター速 度を超える速いシャッター速度でもストロボ撮影ができるようになります。 日中の屋外などで、〈Av〉(絞り優先AE)モードで被写体の背景をぼかし て(絞りを開いて)撮影したいときに有効です。



〈⑥〉を押す



図の項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して図に示す項目を選び、
 - ⟨●⟩ を押します。



〈団〉を選ぶ

- 〈◎〉を回して〈圖〉を選び、〈◎〉を 押します。
- ファインダー内に〈知〉が点灯している ことを確認してから撮影します。

- ↓ ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほどガイドナン バーが低下します。調光連動範囲は表示パネルで確認することができます。
- シャッター速度がストロボ同調最高シャッター速度以下のときは、ファイン ダー内に〈**タ**μ〉は表示されません。
 - 通常の発光に戻すときは、手順3で()休募シンクロ)を選びます(設) 定後の画面に〈№♪〉は表示されません)。

以▶ 後幕シンクロ

低速シャッターで後幕シンクロを行うと、車のライトなど、動いている被 写体の光源の軌跡を自然な感じで写すことができます。撮影が終了する (シャッターが閉じる) 直前にストロボが発光します。



〈◉〉を押す



図の項目を選ぶ

< (○) を回して図に示す項目を選び、 ⟨●⟩ を押します。



〈☆〉を選ぶ

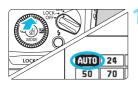
)〈◎〉を回して〈⋙〉を選び、〈◎〉を 押します。



- カメラの撮影モードを〈bulb(B)〉(バルブ撮影)にすると、後幕シンクロ撮 影がしやすくなります。
 - 発光モードが〈ETTL〉のときは、ストロボが2回発光します。1回目の発光 は、発光量を決めるためのプリ発光ですので、故障ではありません。
 - ワイヤレスストロボ撮影のときは、後幕シンクロはできません。
 - 通常の発光に戻すときは、手順3で〈₩♪〉(先募シンクロ)を選びます(設) 定後の画面に〈▶▶〉は表示されません)。

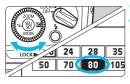
ZOOM: 照射角の設定

照射角(ストロボ光を照射する範囲)を、自動または手動で設定することができます。(人)(自動設定)のときは、使用するレンズの焦点距離(撮影画角)、画面サイズ(p.26)に応じて照射角が自動調整されます。(人)(手動設定)のときは、24~105mmの範囲で任意に設定することができます。



【 【ZOOM】ボタンを押す

◇ 〈◆〉十字キーの〈ZOOM〉ボタンを押 します。



) 照射角を設定する

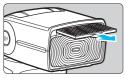
- 自動設定にするときは〈AUTO〉、手動設定を行うときは(焦点距離mmを表す)数値を選びます。
- ◇ ◇ を回して照射角を選び、〈 〉 を押します。

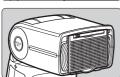


- 照射角を手動設定するときは、撮影した写真の周辺が暗くならないように、撮 影画角と同じか、撮影画角よりも広い照射角を設定します。
- 焦点距離が24mmより短いレンズを装着したときは、表示パネルに警告
 ◆ WIDE〉が表示されます。なお、画面サイズがフルサイズ以外のカメラを使用したときは、実際の撮影画角が24mmレンズ相当の画角よりも広いときに警告〈◆ WIDE〉が表示されます。

ワイドパネル

ストロボに内蔵されたワイドパネルを併用すると、焦点距離 14mmの超 広角レンズの撮影画角に対応したストロボ撮影を行うことができます。





ワイドパネルを引き出す

- ワイドパネルの中央にある突起を引き 出します。
- ワイドパネルが下がった状態にします。



- ❶ ワイドパネルを使用してバウンス撮影を行うと、露出不足になりやすいため、 表示パネルに警告〈 WP〉が表示されます。
 - ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルがストロボ から外れる恐れがあります。
 - EF15mm F2.8フィッシュアイ、EF8-15mm F4LフィッシュアイUSMの 撮影画角には対応していません。
 - ワイドパネルを引き出したときは、ALBフルオート撮影(p.48)はできません。



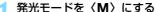
- ワイドパネル使用時は照射角が自動設定されます。任意に変更することはで きません。
- カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときでも、ワイ ドパネルを使用した撮影を行うことができます。

M: マニュアル発光

フル発光(1/1)から1/128発光まで、発光量を1/3段ステップで設定 することができます。

市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得 ることができます。カメラの撮影モードを〈Av〉または〈M〉に設定する ことをおすすめします。



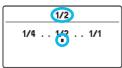


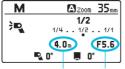
- (♠) 十字キーの (MODE) ボタンを押 します。
 - 〈◎〉を回して〈■M■〉を選び、〈◎〉 を押します。



発光量を設定する

- 〈♠〉十字キーの〈惺〉ボタンを押しま す。
- ◇ (◎) を回して発光量を設定し、〈 (◎) > を押します。





撮影距離 絞り数値

シャッターボタンを半押しすると、撮影 距離の目安と絞り数値が表示されます。



- マニュアル発光時のガイドナンバーについては、109ページを参照してくだ さい。
 - ◆〉十字キーの〈図〉ボタンを押さずに、直接〈⑥〉を回して発光量を設 定することができます (C.Fn-13/p.86)。

ストロボメータードマニュアル撮影

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近いときに有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードを〈M〉にします。

2 ピントを合わせる

手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内中央のスポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 ⟨M-Fn⟩ または ⟨★⟩ ⟨FEL⟩ ボタンを押す(点16)

- → ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- → ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。

5 調光レベルを設定する

調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。



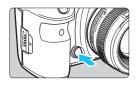
6 撮影する

標準反射板を取り除いて撮影します。

■ EOS-1Dシリーズ以外のカメラでは、ストロボメータードマニュアル撮影はできません。

モデリング発光

カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが約1秒間連続的に発光します。この機能を「モデリング発光」といいます。ストロボ光による被写体の影の出かたを確認するときに有効です。



カメラの絞り込みボタンを押す

→ ストロボが約1秒間連続的に発光します。

AI.Bフルオート時のモデリング発光について

2017年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用し(一部カメラを除く/p.46)、〈AIB〉スイッチを〈⑥〉フルオートに設定したときは、カメラの絞り込みボタンは、「AI.Bフルオート測距開始ボタン」として機能します。

そのときは、カスタム機能C.Fn-O2を1または2に設定すると(p.85)、AI.Bフルオート撮影時に、ストロボのテスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます。



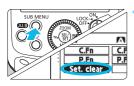
- てください。モデリング発光を20回行ったときは、10分以上休止してくだ さい。
 - 上記回数のモデリング発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行 うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限レベ ル1のときは、発光間隔が強制的に約8秒になります。そのときは40分以上 休止してください。
 - ライブビュー撮影時は、(カメラ側操作による) モデリング発光はできません。
 - FOS M6, FOS M5, FOS M3, FOS M2, FOS M, FOS 55, FOS Kiss III.L. FOS Kiss III. NEW FOS Kiss, FOS Kiss Lite, FOS 3000N, FOS IX F、FOS IX 50と組み合わせたときは、(カメラ側操作による) モデリン グ発光はできません。C.Fn-02を1または2に設定して(p.85)、テスト発光 ボタンでモデリング発光を行ってください(上記FOS Mシリーズ使用時は、 カメラの測光タイマーが作動していないときに機能します)。



□ テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます (C.Fn-O2/p.85)。

ストロボ設定初期化

ストロボの撮影機能やワイヤレス撮影の設定を、初期状態に戻すことがで きます。





設定初期化画面を表示する

- 〈SUB MENU〉ボタンを押します。
- (○) を回して (Set. clear) を選び、(○) を押します。
- 確認画面が表示されます。

設定を初期化する

- 〈⑥〉を回して〈■ok■〉を選び、〈⑥〉 を押します。
- ストロボの設定が初期化され、通常撮 影、発光モードが〈**ETTL**〉になります。

3

バウンス撮影

この章では、AI.Bフルオート機能や、AI.Bセミオート機能、手動バウンス、バウンスアダプターを使ったストロボ撮影など、バウンス機能に関連した機能について説明しています。

↓ AIバウンス機能に関するご注意

AI.Bフルオート、AI.Bセミオート撮影時は、発光部が自動的に動いて発光します。意図しない方向で発光することがあるため、AIバウンス撮影を行う前に、必ず周りの人に注意を促してください。また、AIバウンス撮影を行うときは、以下の点に注意してください。

- ・発光部に目を近付けないようにしてください。
- ・発光部がぶつかることがあるため、発光部に顔や頭などを近づけないようにしてください。
- ・発光部が動作するため、カメラをしっかり構えてください。
- ・発光部に髪の毛などがかからないようにしてください。
- ・ローアングル撮影時は、発光部の向きに注意してください。

AIB AIバウンスについて

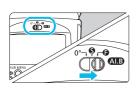
ストロボの発光部を天井に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影す ると、被写体による影が緩和されて、より自然な感じで写すことができま す。この撮影方法を「バウンス撮影」といいます。

バウンス撮影は、被写体に直接ストロボ光を当てる方法に比べて、より自 然な感じで写すことができますが、適切な露出で撮影するには、知識や経験 が必要な場合があります。

このストロボには「バウンス撮影 | を「オート | で行うことができる「AI バウンス (ALB) 機能 | が搭載されています。AIバウンスには、「ALBフル オートモード | 「Al.Bセミオートモード | の2通りがあり、Al.Bフルオート 機能を使用すると、簡単な操作でカメラまかせのバウンス撮影を行うことが できます。

バウンスモード

〈ALB〉 バウンスモード切り換えスイッチをスライドさせて、AIバウンス のモードを切り換えます。



- 撮影を行わない)ときに設定します。
- **S**: 「AI.Bセミオート撮影」を行うことが できます (p.45、56)。
- (3):「AI.Bフルオート撮影」を行うことが できます (p.43、46、48)。

- ❶ の バウンスモードを切り換えたときに、発光部が自動的に正面の位置まで動き ます。
 - 発光部が動作しているときは、発光部に触れないでください。
 - 手動バウンス撮影を行うときは、P.Fn-09を1に設定し(p.92)、スイッチを **(0°)** の位置に設定してください。

ALBE ALBUNTAL

初級者向けのモードです。簡単な操作でカメラまかせのバウンス撮影を行うことができます。〈ALB〉AI.Bフルオート測距開始ボタンを押すと、ストロボがブリ(微小)発光して、被写体までの距離と、ストロボ光を反射させる天井までの距離を計測する動作が行われます。その測距結果に基づいて、ストロボの発光部の向き(バウンス角)が自動設定されます。

AI.Bフルオート撮影については、46~55ページを参照してください。



〈AIB〉ボタンを押すと、 以下の動作が自動で行われます。



2017年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時は (p.46)、カメラの 絞り込みボタンで、上記と同じ測距動作を行うことができます。

なお、カメラの構え方(姿勢)を変えたときは、カメラのシャッターボタンをダブルクリック(短い間隔で連続2回半押し)すると、発光部が自動的に動いて、構え方を変える前とほぼ同じバウンス角になるように再設定されます。



前ページの③の状態から 構え方(姿勢)を変更

③とほぼ同じ バウンス角に再設定

0

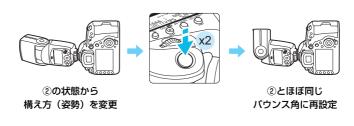
使用するカメラによっては、AI.Bフルオート撮影ができないことがあります。また、AI.Bフルオート撮影に対応したカメラでも、操作が一部制限されることがあります。詳しくは46ページを参照してください。

ALBS ALBUSTAL

AI.Bセミオート撮影については、56~59ページを参照してください。



なお、カメラの構え方(姿勢)を変えたときは、カメラのシャッターボタンをダブルクリック(短い間隔で連続2回半押し)すると、発光部が自動的に動いて、構え方を変える前とほぼ同じバウンス角になるように再設定されます。



AIBE AI.B フルオートについて

使用するカメラにより、AI.Bフルオートへの対応と、AI.Bフルオート撮影を開始するときの操作方法が一部異なります(2014年上期までに発売されたEOSカメラは、AI.Bフルオート撮影には対応していません)。

AI.B フルオート撮影時は、撮影を行う前にストロボをプリ(微小)発光させて、被写体までの距離と、ストロボ光を反射させる天井までの距離を計測する動作を行います。この動作を行うことで、被写体に対して適切なバウンス角が自動設定されます。

この動作を行う方法は、以下の2通りがありますが、使用するカメラにより対応する操作方法が異なります。

- ①ストロボの〈MB〉AI.Bフルオート測距開始ボタン
- ②カメラの絞り込みボタン

AI.Bフルオート対応カメラと操作の制限について

- 2017年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラ
 ①または②の操作で、AI.Bフルオート撮影時の測距を開始することができます。
 - * EOS Kiss X90は2017年下期以降の発売ですが、次ページの「2014年上期までに発売されたEOSカメラ」と同じ対応になります。AI.Bフルオート撮影はできません。



- AI.Bフルオート対応カメラの最新情報については、キヤノンのホームページ を参照してください。
- 2017年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時に、カメラが絞り 込みボタンを備えていないときは、カメラのカスタマイズ機能で、ボタンに 「絞り込み機能」を割り当てると(一部ボタンを除く)、割り当てたボタンで AI.B フルオート撮影の測距動作を開始する(②と同じ操作を行う)ことができます。

2014年下期~2017年上期までに発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1D X Mark II、EOS 5DS/5DS R、EOS 5D Mark IV、EOS 7D Mark II、EOS 80D、EOS 9000D、EOS 8000D、EOS Kiss X9i、EOS Kiss X8i使用時は、①の操作でフルオートバウンス撮影を行うことができます。 ②の操作でAI.Bフルオート撮影の測距動作を開始することはできません。

- * EOS Kiss X80、EOS M6、EOS M5、EOS M3は2014年下期以降の発売ですが、「2014年上期までに発売されたEOSカメラ」と同じ対応になります。AI.B フルオート撮影はできません。
- 2014年上期までに発売されたEOSカメラ
 AI.Bフルオート撮影はできません。 AI.Bセミオート撮影 (p.56)、手動バウンス撮影 (p.61) を行ってください。

- ♥ (AIB) ボタンを押して、AI.Bフルオートの測距動作中にシャッターボタンを 全押し(撮影) しないでください。ストロボがフル発光して、正確な測距動 作ができないことがあります。
 - カメラ側の撮影モードがストロボが発光しないモードに設定されているときや、「外部ストロボ制御」または「ストロボ制御」(p.66)の「ストロボの発光」が「しない」に設定されているときは、2017年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時に、カメラの絞り込みボタンを押しても、AI.Bフルオート撮影時に測距動作は行われません。
 - 2017年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時に、カメラの絞り 込みボタンを押したあと、AI.Bフルオートの測距動作中にシャッターボタン を全押ししても撮影できません(レリーズロック)。測距動作が完了してか ら撮影してください。

ALBE AI.B フルオート撮影

AI.B (AIバウンス) フルオート撮影を行う前に、使用するカメラがフルオートバウンス撮影に対応しているかどうか、確認してください (p.46)。

なお、AI.Bフルオートの概要については、43ページを参照してください。また、AI.Bフルオート撮影を行う前に、『安全上のご注意』(p.8)、『AI.Bフルオート撮影/AI.Bセミオート撮影共通注意事項』(p.60) なども合わせて確認してください。

AI.Bフルオート時の撮影条件の目安

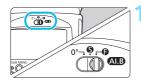
AI.Bフルオート撮影を行うときは、下図を目安にしてバウンス撮影を行ってください。また、被写体を画面の中央に配置した状態で〈AIB〉ボタンを押して(測距動作を開始して)ください。

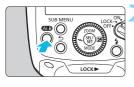




- 被写体との距離が離れているときや、天井までの距離が離れているとき、天井が暗い色のとき、天井に段差や凹凸があるとき、カメラのISO感度の設定が低いとき、大きな絞り数値を設定したときなどは、露出アンダー(不足)になりやすくなります。
- 天井までの距離が約7m以上(目安)のときや、撮影する角度が上方向約60°/ 下方向約60°を超えるときは、発光部が自動的に正面の位置に移動し、バウン スなしの通常のストロボ撮影になります。

AI.Bフルオート撮影





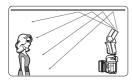


〈AIB〉スイッチを〈**(子)〉の**位置にする(n.42)

- カメラにストロボを取り付けた状態で、 カメラとストロボの電源が入っている ことを確認します。
- (ALB) バウンスモード切り換えスイッチを(骨)の位置に設定します。
- 発光部が正面の位置にないときは、発光 部が動いて、正面の位置に自動設定され ます。

〈AIB〉ボタンを押す

- 〈\$〉充電ランプが点灯していることを確認します。
- 被写体を画面の中央に配置した状態で (ALB) ボタンを押します。
- 被写体までの距離と、ストロボ光を反射 させる天井までの距離の計測(測距動 作)が行われます。なお、動作中にスト ロボが2回プリ(微小)発光します。
- 使用するカメラによっては、絞り込みボタンで測距を開始することもできます (p.46)。
- → 測距が終わると、バウンス角が自動設定 されます。
- → 表示パネルのストロボのマークが、 〈**注**へ〉になります。



撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、被写 体にピントを合わせて撮影します。
- 自動設定されたバウンス角でストロボ が発光し、撮影が行われます。
- 画像を再生して、撮影結果を確認しま す。



- ❶ ストロボ発光禁止の撮影モードを備えたカメラのときは、ストロボ発光禁止 以外のモードに設定してください。
 - AI.B フルオート撮影時は、照射角が自動設定されます。任意に変更すること はできません。
 - カメラのメニュー機能「外部ストロボ制御」または「ストロボ制御」の「ストロボの 発光]を「しない]に設定しても、〈ALB〉ボタンを押すとストロボがプリ発光 して測距動作が行われます。



- 被写体との距離が近いときは、バウンス角が90°以上に設定されることがあ りますが、これは正常な動作です。ストロボ光が被写体にあたる角度を緩め る(入射角を浅くする)でとで、被写体にできる影(例:人物撮影時に顔の 下にできる影など)を抑えることができます。
 - バウンス中は照射角が50mmに設定され、<-->と表示されます。
 - ■〈ALB〉ボタンなどを押して測距動作を行ったあと、発光部の位置が動いた。 (不用意に動いた) 状態で(ALBランプ点滅時)、シャッターボタンを半押し したり、カメラのいずれかのボタンを押したときは、測距動作により自動設 定されたときのバウンス角に自動補正されることがあります。なお、ALBラ ンプが点滅している状態でシャッターボタンを全押ししたときは、発光部が 適切な位置に移動するまでストロボは発光しません。

カメラの構え方(姿勢)を変えたときは?







〈ALB〉ボタンなどを押して、ALBフル オートの測距動作を行ったあと、カメラの 構え方(姿勢)を変えたときは、カメラの シャッターボタンをダブルクリック(短い 間隔で連続2回半押し) すると、発光部が自 動的に動いて、構え方を変える前とほぼ同 じバウンス角になるように再設定(自動補 正) されます。

カメラの横位置/縦位置の構え方を変え たときに便利な機能です。



- ❶ の バウンス角の自動補正動作中に撮影を行うと、ストロボは発光しません。
 - 撮影条件(被写体、被写体との距離、天井までの距離など)が変わったとき は、再度〈AIB〉ボタンを押して、測距動作を行ってください(n.49)。
- □ バウンス角の自動補正動作を行う方法を選ぶことができます (P.Fn-08 / p.91)。

? こんなときは

- ストロボの表示パネルに、警告が表示されたときは?

警告表示	対処方法
AI.BO	ストロボをカメラに取り付けてから、〈ALB〉ボタンを押してください。
• RETRY ME	発光部に障害物が当たっているため、適切な動作ができません。障害物を取り除いてから、もう一度同じ操作を行ってください。
4 AI.B ERROR	3回同じ動作を行いましたが、適切な動作ができませんでした。電源を入れ直す、〈ALB〉 スイッチを一旦〈O°〉の位置にするなどの操作を行ってください。
C ⊗	AI.Bフルオートに対応していないカメラです。 AI.Bセミオート撮影(p.56)、または手動バウン ス撮影(p.61)を行ってください。
CAMERA POWER IS OFF OFF	カメラの電源が入っていません。カメラの電源を 入れてから〈 AIB 〉ボタンを押してください。
Al.B-F	AI.Bフルオート撮影時は、照射角の手動設定はできません。
WIDE PANEL	AI.Bフルオート撮影時にワイドパネルは使用できません。ワイドパネルを収納してください。
BOUNCE ADAPTER	バウンスアダプターを使用したときは、照射角の 手動設定はできません。
WIDE PANEL + BOUNCE ADAPTER	ワイドパネルが引き出された状態で、バウンスア ダプターが取り付けられています。照射角の手動 設定はできません。

カメラの絞り込みボタンを押しても、発光部が動作しない

AI.Bフルオート時に、カメラの絞り込みボタンで測距動作が開始できるかどうか(対応カメラかどうか)については、46ページを参照してください。

- カメラの構え方(姿勢)を変えても、バウンス角が自動補正されない シャッターボタンをダブルクリック(短い間隔で連続2回半押し)すると、構え方を変える前とほぼ同じバウンス角になるように、発光部が 自動的に動いて再設定されます。
- 露出アンダー(不足)になる

バウンス撮影時は、被写体に届く光の量が少なくなるため、露出アンダー(不足)になりやすくなります。できるだけ被写体に近づいて撮影したり、カメラのISO感度を上げたり、レンズの絞りを開いて撮影するなどの対応を行ってください。

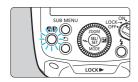
また、ストロボ光をバウンスさせる天井や壁までの距離が離れている ときや、天井が暗い色のとき、天井に段差や凹凸があるときは、被写体 に光が十分に届かず、適切な露出で撮影できないことがあります。

● 被写体の色がおかしい

ストロボ光をパウンスさせる反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けたり、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。ストロボ光をパウンスさせる天井や壁は、無地の白に近い色をした反射率の高いものを選んでください。

カメラに電池が入っていないときは、〈AIB〉ボタンを押したときに、ストロボの警告表示が適切に行われないことがあります。

ALB AI.Bランプについて



AI.Bフルオート撮影時の発光部の状態により、青い〈ALB〉ランプの表示(点灯/点滅)が変わります。

ランプ	状態	
消灯	AI.Bフルオート撮影開始前	
高速点滅	AI.Bフルオート測距動作中、バウンス角補正動作中	
点灯	測距完了(AI.Bフルオート撮影可能)	
低速点滅	測距動作完了後にバウンス角が変更された場合	
	AI.Bフルオート時のエラー	
	バウンス角登録後にバウンス角が変わった場合(〈 ^メヒテト 〉時)	
	発光部が正面位置からずれたとき(Al.Bフルオート撮影前)	

ANGLE: バウンス角設定ボタンについて

AI.Bフルオート撮影時に〈***MSF**〉ボタンを押すと、そのときのバウンス 角がストロボに記憶(登録)され、AI.Bセミオート撮影を行うことができま す。AI.Bセミオート撮影については、56~59ページを参照してください。

♠ AI.Bフルオート撮影全般の注意事項

- 〈ALB 〉スイッチを他のモードに切り換えたときや、電源スイッチを〈OFF〉 にしたときは、ストロボに記憶(登録)したバウンス角は消去されます。
- FEロックやセルフタイマー撮影を行うときは、シャッターボタンをダブルク リックして、発光部が記憶(登録)位置に再設定(自動補正)されてから、FE ロック操作や撮影を行ってください。
- カメラを下向き、上向きにして撮影したときは、適切なバウンス角が自動設 定されないことがあります。そのときは、以下の方法で撮影を行ってくださ (,)
 - AI.Bセミオート撮影を行う(p.56)
 - · 〈 (ALB) スイッチを (0°) の位置にして、発光部を正面の位置にする (p.42) ・手動バウンス撮影(p.61)
- 動画撮影時に〈ALB〉ボタンを押すと、ALBフルオート測距動作(プリ発光) が行われますが、ストロボ撮影はできません。
- 発光部を動かすときは、ゆっくり操作してください。なお、発光部を動かし た際に音がすることがありますが、異常ではありません。ただし、発光部を 連続して素早く動かすと、故障の原因になることがあります。



ALBフルオート撮影時に、カメラの構え方(姿勢)を決め、発光部の調整を行っ てから〈ANGLE〉ボタンを押すと、手動バウンス撮影のように、任意のバウンス角 で発光させることができます。

AIBS AI.B セミオート撮影

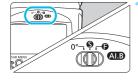
AI.B(AIバウンス)セミオートの概要については、45ページを参照してください。

すべてのEOSカメラでAI.Bセミオート撮影を行うことができます。なお、AI.Bセミオート撮影を行う前に、『安全上のご注意』(p.8)、『AI.Bフルオート撮影/AI.Bセミオート撮影共通注意事項』(p.60) なども合わせて確認してください。

AI.Bセミオート時の撮影条件の目安

48ページの『AI.Bフルオート時の撮影条件の目安』を参考にしてください。

AI.Bセミオート撮影



〈ALB〉スイッチを〈**⑤〉**の位置にする (p.42)

- カメラにストロボを取り付けた状態で、 カメラとストロボの電源が入っている ことを確認します。
- (ALB) バウンスモード切り換えスイッチを〈⑤〉の位置に設定します。
- 発光部が正面の位置にないときは、発光 部が動いて、正面の位置に自動設定され ます。

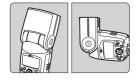


) バウンス角を任意に設定する

- 撮影するときのカメラの構え方(姿勢) を決めてから、手順2、3の操作を行い ます。
- 被写体との距離、天井までの距離などを 考慮して、発光部を手で動かして、バウ ンス角を設定します。
- → 表示パネルのストロボのマークが、 〈きへ〉になります。







₹ 〈ststle 〉ボタンを押す

- 手順2でバウンス角を決めたあと、 〈 MSF 〉 ボタンを押すと、バウンス角が ストロボに記憶(登録)されます。
- バウンス角を登録し直すときは、もう 一度手順2、3の操作を行います。

撮影する

- 手順3でストロボにバウンス角を記憶させた(登録した)あと、カメラの構え方(姿勢)を変えたときは、カメラのシャッターボタンをダブルクリック(短い間隔で連続2回半押し)してください。
- 記憶させた(登録した)ときとほぼ同じ バウンス角になるように、発光部が自動 的に動いて再設定されます。
- 通常のストロボ撮影と同じように、被写体にピントを合わせて撮影します。
- 画像を再生して、撮影結果を確認します。

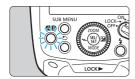


- 被写体との撮影距離が変わったときは、バウンス角の調整(再設定)を行っ てください。調整したバウンス角を再登録するときは、再度〈ANGLE〉ボタン を押してください。なお、調整後に〈ANGLE〉ボタンを押さずに、シャッター ボタンを半押しすると、元のバウンス角に設定されるため、注意してくださ い。
- ストロボにバウンス角を記憶させた(登録した)あと、発光部の位置を動か した(不用意に動いた)とき(ALBランプ点滅時)は、シャッターボタンを 半押しすると、発光部が自動的に動いて登録したときの位置に設定されます (バウンス角が自動補正されます)。
- バウンス角の自動補正動作中に撮影を行うと、ストロボは発光しません。
- FF ロックやセルフタイマー撮影を行うときは、シャッターボタンをダブルク リックして、発光部が記憶(登録)位置に再設定(自動補正)されてから、FF ロック操作や撮影を行ってください。
- (ALB) スイッチを他のモードに切り換えたときや、電源スイッチを(OFF) にしたときは、ストロボに記憶(登録)したバウンス角は消去されます。
- 発光部を動かすときは、ゆっくり操作してください。なお、発光部を動かし た際に音がすることがありますが、異常ではありません。ただし、発光部を 連続して素早く動かすと、故障の原因になることがあります。
- ストロボの表示パネルに警告が表示されたときは、52ページを参照してくだ。 さい。



- AI.B セミオート撮影時に、カメラの構え方(姿勢)を決め、発光部の調整を 行ってから〈ANGLE〉ボタンを押すと、手動バウンス撮影のように、任意のバ ウンス角で発光させることができます。
 - バウンス角の自動補正動作を行う方法を選ぶことができます(P.Fn-08 / p.91)。

ALB ALBランプについて



AI.Bセミオート撮影時の発光部の状態により、青い〈AIB〉ランプの表示(点灯/点滅)が変わります。

ランプ	状態	
消灯	バウンス角未登録(Al.Bセミオート撮影開始前)	
高速点滅	AI.Bセミオート動作中、バウンス角補正動作中	
点灯	バウンス角の登録完了(Al.Bセミオート撮影可能)	
	バウンス角登録後にバウンス角が変わった場合	
低速点滅	AI.Bセミオート時のエラー	
	発光部が正面位置からずれたとき(Al.Bセミオート撮影前)	

? こんなときは

「カメラの構え方(姿勢)を変えても、バウンス角が自動補正されない」 「露出アンダー(不足)になる」「被写体の色がおかしい」ときは、53ページを参照してください。

♣ AI.Bフルオート撮影/AI.Bセミオート撮影共通注意事項

- カメラの構え方(姿勢)を変えたときに、カメラの傾きが大きいときは、バウンス角の自動補正が行われないことがあります。また、記憶したバウンス角に再設定できない姿勢変化のときは、バウンス角の自動補正は行われません。
- 発光部の回転角は5°刻みで表示されるため、バウンス角の自動補正が行われたときなど、(自動補正前と後で)表示上5°程度の誤差が生じることがあります。
- AI.B フルオート撮影、AI.B セミオート撮影時にストロボ設定初期化 (p.40) を行うと、ストロボに記憶(登録)されているバウンス角がクリアされます。 そのため、シャッターボタンを半押しすると、発光部が正面の位置に戻ります。
- リモコンのレリーズボタンやカメラのタッチ操作による、AIバウンス撮影はできません(対応していません)。

AI.Bフルオート撮影/AI.Bセミオート撮影共通事項

2017年下期以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時に (p.46)、以下の① ②③の条件で発光部が動作しているときは、カメラのファインダー内と表示パネルに「AI_b」、液晶モニターに [AI BOUNCE] が表示されます。

- ① AI.Bフルオート撮影時に〈AIB〉ボタンなどを押して測距動作を行ったとき (カメラの測光タイマー作動中)
- ② AI.Bフルオート撮影時、AI.Bセミオート撮影時にシャッターボタンをダブルク リックして姿勢補正動作を行ったとき
- ③ AI.Bフルオート撮影時に測距動作が行われたあと、またはAI.Bセミオート撮影時にストロボにバウンス角を記憶させた(登録した)あと、発光部の位置を動かした(不用意に動いた)ときに、シャッターボタンを半押ししてバウンス角の自動補正が行われたとき

┊┓ 手動バウンス撮影

手動パウンス撮影を行うときは、以下の設定を行ってから、発光部の向き を調整してください。





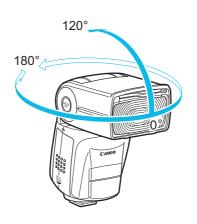
¶ P.Fn-09-1に設定する

92ページを参照して、パーソナル機能 P.Fn-09 (手動バウンス設定)を1に 設定します。

)〈ALB〉スイッチを〈0°〉に設定する

🚶 バウンス角を手動設定する

- 発光部の向きを手動で調整します。
- 表示パネルで上方向、左右方向のバウンス角を確認することができます。
- → 表示パネルのストロボのマークが、 〈**冷**園〉になります。





- ♠ P.Fn-09が0に設定されているときは (p.92)、バウンス角の手動設定はでき ません(バウンス角の手動設定を行っても、シャッターボタンを半押しする と、発光部が自動的にO°の位置に戻ります)。
 - ストロボ光をバウンスさせる天井や壁までの距離が離れていると、反射光が 届かず、適切な露出で撮影できないことがあります。
 - 撮影した画像が暗いときは、より小さな絞り数値を設定して(絞りを開いて) 再度撮影してください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もありま す。
 - ストロボ光をバウンスさせる天井や壁は、無地の白に近い色をした反射率の 高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色 の影響を受けたり、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがありま す。
 - バウンス撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アン ダーになりやすくなります。
 - 発光部を動かすときは、ゆっくり操作してください。なお、発光部を動かし た際に音がすることがありますが、異常ではありません。ただし、発光部を 素早く動かすと、故障の原因になることがあります。



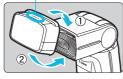
- 照射角を〈▲〉(自動設定)に設定した状態で発光部の向きを変えると、照射 角が50mmに設定され、〈--〉と表示されます。
- 照射角を手動で設定することもできます(p.34)。

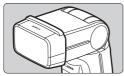
対し、バウンスアダプターを併用する

付属のバウンスアダプターをストロボに装着して、ストロボ光を天井や壁 などにバウンスさせて撮影すると、ストロボ光がより広範囲に拡散されて和らぎ、被写体の影を抑えることができます。

また、バウンス角を90°にして天井などにバウンスさせたときは、バウンスアダプターの側面から拡散されたストロボ光が被写体の正面から当たり(撮影距離の目安:約1.5m以内/ISO100・F2.8時)、被写体の影をさらに抑えることができます。人物撮影のときはキャッチライト効果も得られます。

"Canon" □ゴ









バウンスアダプターを取り付ける

- 図のようにアダプターをストロボの発 光部に「カチッ」と音がするまで確実に 取り付けます。
- 表示が〈注彙〉になっていることを確認 します。
- アダプターを取り外すときは、逆の手順でアダプターの下側にある取り外し爪を浮かせて発光部から取り外します。

撮影する

- AI.Bフルオート撮影時は(p.48)、 (AIB) ボタンを押すと、発光部が天井 に向くようにバウンス角が自動設定されます。
- 天井や壁などにバウンスさせて撮影します。



- ♦ 「いウンスアダプター装着時や、バウンスアダプター+ワイドパネル併用時は、 ガイドナンバーが低下して露出不足になりやすいため、必要に応じてカメラ のISO感度を上げたり、調光補正(p.30)を行ってください。
 - バウンスアダプター装着時はガイドナンバーが低下するため、ストロボ間欠 発光によるAF補助光では、ピント合わせができないことがあります。赤外光 方式のAF補助光の使用をおすすめします(P.Fn-04-0/p.89)。
 - バウンスアダプター装着時にクイック発光(p.21)を行うと、発光量が不足 することがあるため、充電ランプが赤色になってから撮影することをおすす めします。
 - バウンスアダプター装着時は、照射角が自動設定されます。任意に変更する ことはできません。
 - 2004年までに発売されたEOSデジタルカメラを使用して、ストロボにバウ ンスアダプターを装着したときは、ホワイトバランスを〈MMB〉に設定して ください。〈4〉の設定で撮影すると、適切なホワイトバランスが得られない ことがあります。



- ワイドパネルを併用すると(p.35)、さらに光を和らげることができます。
- 撮影画像を確認して被写体が暗い(露出アンダーの)ときは、調光補正(p.30) を行ってください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。
- AI.B フルオート撮影、AI.B セミオート撮影時に、バウンスアダプターを装着 しているときも、〈ANGLE〉ボタンでストロボにバウンス角を記憶させる(登録 する) ことができます。

4

カメラ操作による ストロボの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定 する方法について説明しています。

♪ カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈P/Tv/Av/M/bulb(B)〉(応用撮影ゾーン)にしてください。

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定



する

AUTO

MENU 5

外部ストロボ制御 ストロボの発光

E-TTL II調光方式

ストロボ機能設定

ストロボカスタム機能設定設定設定初期化

Avモード時のストロボ同調速度

【外部ストロボ制御】を選ぶ

「外部ストロボ制御」または「ストロボ制御」 を選びます。

) [ストロボ機能設定] を選ぶ

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機 能設定] を選びます。
- ⇒ 設定画面が表示されます。

🤾 機能を設定する

- カメラにより設定画面や表示される項目が異なります。
- 項目を選び、機能を設定します。

表示例1



表示例2



ストロボ機能設定画面で設定できる内容

● 2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

カメラの [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] の画面で「通常撮影」の設定を行うことができます。

設定できる主な機能は次のとおりです。使用するカメラや発光モードの設定などにより、設定できる内容が異なります。

機能		
ストロボの発光	する/しない	
E-TTL II調光方式	評価調光/平均調光	
Avモード時のストロボ同調速度		
発光モード	E-TTL II(自動調光)/マニュアル発光	
シンクロ設定	先幕シンクロ/後幕シンクロ/	
フラブロ設定	ハイスピードシンクロ	
調光補正		
ズーム(照射角)		
設定初期化		

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、「する」に設定します。ストロボのAF補助 光だけを利用するときは、「しない」に設定します。

● E-TTL II調光方式

通常は標準的なストロボ露出が得られる[評価調光]に設定します。[平均調光]に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

O Avモード時のストロボ同調速度

〈**Av**〉絞り優先AEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調シャッター速度を設定することができます。

● 発光モード

撮影目的に応じて「E-TTLIII」「マニュアル発光」を選ぶことができます。

シンクロ設定

ストロボの発光タイミング/発光方式を [**佐幕シンクロ**] [**後幕シンクロ**] [**バイスピードシンクロ**] の中から選ぶことができます。通常のストロボ撮影を行うときは、「**佐幕シンクロ**] に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

ズーム(照射角)

ストロボの照射角を設定することができます。 [オート] を選ぶと、撮 影レンズの焦点距離、カメラの画面サイズ (p.26) に応じて照射角が自 動設定されます。

設定初期化

[ストロボ機能設定初期化] または「外部ストロボ設定初期化] を選ぶと、スト 口ボの設定内容を初期状態に戻すことができます。

↓ バウンスアダプター装着時、ワイドパネル使用時など、照射角が自動設定される ときや、〈**AIB**〉スイッチが〈**B**〉の位置に設定されているときは、「**ズーム**](照 射角) の設定はできません。



- □ 「ストロボの発光] [E-TTL ||調光方式] は、66ページの手順2または手順3で表示 されます (カメラにより異なります)。
 - ■「Avモード時のストロボ同調速度」が表示されないときは、カメラのカスタム機能 で設定することができます。
 - ストロボ側で調光補正を行ったときは、カメラ側から調光補正を行うことは、 できません。同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されま す。

ストロボカスタム機能設定

カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定することができます。なお、表示される内容は、使用するカメラによって異なります。 C.Fn-21~23が表示されないときは、ストロボを操作して設定してください。カスタム機能については、82~87ページを参照してください。



[ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

- [ストロボカスタム機能設定] または [外部ストロボカスタム機能設定] を選びます。
- → ストロボのカスタム機能設定画面が表示されます。



) カスタム機能を設定する

- カスタム機能番号を選びます。
- 項目を選び、機能を設定します。
- 設定初期化
 ストロボ機能設定初期化
 ストロボカスタム機能一括解除
- カスタム機能の設定をすべて解除する ときは、手順1で[設定初期化]を選んだ あと、「ストロボカスタム機能一括解除]また は「外部ストロボカスタム機能一括解除]を選 びます。



- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X90/X80/X70では、[ストロボカスタム機能-抵解除] または [外部ストロボカスタム機能-抵解除] を選んでも、C.Fn-21~23の設定は解除されません。84ページのカスタム機能一括解除を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます(C.Fn-00を除く)。
- パーソナル機能(P.Fn/p.88)は、カメラのメニュー画面から設定/一括解除することはできません。ストロボを操作して設定してください。

光通信 ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「光通信」ワイヤレスレシーバー機能を使用したス トロボ撮影方法について説明しています。

光通信ワイヤレス撮影に必要なアクセサリーについては、シス テム図を参照してください(p.94)。



カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、 この章の操作はできません。カメラの撮影モードを $\langle P/T_V/A_V/M/$ bulb(B)〉(応用撮影ゾーン)にしてください。

◥

- 光通信ワイヤレスレシーバーに設定した470EX-AIを、光通信ワ イヤレスセンダー機能を備えた機器 (p.94) でワイヤレス制御す ることができます。
- 光通信ワイヤレスセンダー機能を備えた機器を「センダー」、ワイ ヤレス制御される470EX-AIを「レシーバー」と呼んでいます。

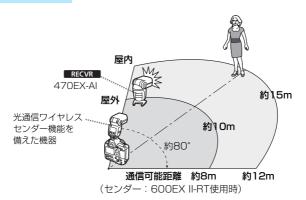
★ 光通信ワイヤレスストロボ撮影

光通信ワイヤレスセンダー機能を備えたキヤノン製の機器と、レシーバーに設定した470EX-AIを使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じような感覚で、ワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

センダーの設定内容が、ワイヤレス制御される470EX-AI(レシーバー)側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にレシーバーを操作する必要はありません(単独レシーバー時を除く/p.79)。

光通信によるワイヤレスストロボ撮影方法については、センダー機能を備えた機器の使用説明書を参照してください。

配置と作動範囲(ワイヤレスストロボ撮影例)





- ♠ 通信の妨げになるため、センダーとレシーバーの間に障害物を置かないでく ださい。
 - 通信可能距離は、使用するセンダーにより異なります。センダー機能を備え た機器の使用説明書を参照してください。
 - 撮影を行う前に、テスト発光(p.21)やテスト撮影を行ってください。



- レシーバーのワイヤレス受信部を、センダーに向けた状態で配置してくださ W
 - 付属のミニスタンド(p.15)を使用してレシーバーを配置します。
 - センダーの設定方法については、光通信ワイヤレスセンダー機能を備えた機 器の使用説明書を参照してください。

ワイヤレス設定

光通信ワイヤレスレシーバー機能を利用したストロボ撮影を行うときは、 以下の設定を行います。

レシーバー設定



〈 **▲ RECVR →**)に設定する

- レシーバーに設定するストロボを操作 して設定します。
- ◇ 〈◆〉十字キーの〈◆◆〉ボタンを押します。
- (◎) を回して〈 ✓ RECVR ■) を選び、〈 ◎) を押します。
- 通常のストロボ撮影を行うときは、〈WIRELESS OFF 〉を選んでワイヤレス(レシーバー)の設定を解除してください。
- □ レシーバー設定時に〈●B〉スイッチを、〈●〉または〈●〉の位置にしても機能しません。

通信チャンネルの設定

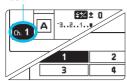
他の人が使用している光通信によるワイヤレスシステムと混信しないように、通信チャンネルを切り換えることができます。 チャンネルは、センダー、レシーバーとも同じ番号に設定します。



通信チャンネルを設定する

- 〈⑥〉を押します。
- (◎) を回してチャンネルの項目を選び、(⑥) を押します。

诵信チャンネル



の中から選び、〈●〉を押します。



❶ ャンダーとレシーバーの通信チャンネルが異なると、レシーバーは発光しませ ん。同じ番号に設定してください。

メモリー機能

ワイヤレス設定した内容をレシーバーに保存したり、呼び出すことができ ます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ(レシーバー)を個別 に操作します。





〈MEMORY〉を選ぶ

- ●〈SUB MENU〉ボタンを押します。
- (の) を回して (MEMORY) を選び、
 - ⟨●⟩ を押します。

設定内容を保存する/呼び出す

- 〈◎〉を回して〈■SAVE 〉(保存)また は〈LOAD 〉(呼び出し)を選び、〈

 o を押します。
- 〈■ok ■〉を選びます。
- → 〈 SAVE 〉 を選ぶと、設定内容が保存(記) 憶) されます。
- **→ 〈 LOAD 〉**を選ぶと、保存したときの設 定内容になります。

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影

光通信ワイヤレスセンダー機能を備えた機器(センダー)と、レシーバーに設定した470EX-AIを使った、基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

光通信ワイヤレスストロボ撮影の詳細、およびセンダーの操作方法などについては、センダー機器の使用説明書を参照してください。

▼ センダーに設定する

センダー機能を備えた機器を、光通信ワイヤレス「センダー」に設定します。

) レシーバーに設定する

- センダーからワイヤレス制御する 470EX-AIを「レシーバー」に設定し ます(p.74)。
- 発光グループは、A, B, Cのどれでも構いません。

₹ チャンネルを確認する

センダーとレシーバーの通信チャンネルが異なるときは、同じ番号に設定します(p.74)。

✓ カメラとストロボを配置する

● 72ページに示した範囲内に配置します。

≶ 発光モードを〈ETTL〉にする

- センダーの発光モードを〈ETTL〉に設定します。
- レシーバーはセンダーからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。
- 発光グループ制御が〈ALL〉に設定されていること(光量比制御が設定されていないこと/RATIO OFF)を確認します。





🧲 充電を確認する

- レシーバーの充電が完了すると、AF補助 光の投光部が約1秒間隔で点滅します。
- ヤンダーの充電ランプが点灯している ことを確認します。

作動を確認する

- センダーからテスト発光を行います。
- レシーバーが発光します。発光しないと きは、通信可能範囲内に配置されている か確認してください(p.72)。

📿 撮影する

通常のストロボ撮影と同じように、カメ ラの設定を行ってから撮影します。

❶ レシーバーの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でレ シーバーが誤動作して、意図せずに発光することがあります。



- レシーバーの照射角は24mmに設定されます。照射角を手動設定することも できます。
 - レシーバーがオートパワーオフ状態になったときは、センダーのテスト発光 ボタンを押すとレシーバーの電源が入ります。ただし、カメラ側で測光タイ マーなどが作動しているときは、テスト発光できません。
 - レシーバーがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができ ます (C.Fn-10/p.86)。
 - レシーバーの充電が完了したときに、AF補助光の投光部の点滅を禁止するこ とができます (C.Fn-23/p.87)。

全自動ワイヤレスの応用撮影

本ワイヤレスシステムでは、ヤンダーで設定した以下の機能がレシーバー に自動設定されるため、レシーバーを操作する必要はありません。そのた め、通常のストロボ撮影と同じような感覚で、ワイヤレスストロボ撮影を行 うことができます。

- ・ストロボ調光補正 (62 / p.30)
- •**FE ロック** (p.31)

- ・ハイスピードシンクロ $(\mathbf{G}_{1} / p.32)$
- ・マニュアル発光 (p.36)

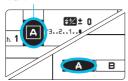


- レシーバーを直接操作して、レシーバーごとに調光補正、照射角の設定を行 うこともできます (p.79)。
 - FFB、マルチ発光機能を備えたセンダーを使用したときは、レシーバーに設 定した470EX-AIを使用して、FEB撮影、マルチ発光を行うこともできます。

発光グループの設定

レシーバーに設定した470EX-AIを使用して、2グループ(A.B)、3グ ループ(A.B.C)のワイヤレス撮影を行うときに設定します。

発光グループ

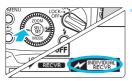


レシーバーの発光グループを設定する

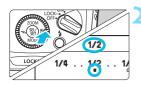
- レシーバーを操作して 1 台ずつ設定しま す。
- (⑥) を押します。
- 〈⑥〉を回して発光グループの項目を選 び、〈⑥〉を押します。
- (◎) を回して (▲) (B) (C) の いずれかを選び、〈⑥〉を押します。

INDIVIDUAL レシーバーで設定するマニュアル発光

レシーバーを直接操作して、マニュアル発光の手動設定を行うことができ ます。この機能を「単独レシーバー」といいます。スピードライトトランス ミッター ST-E2 (別売) を使用して、ワイヤレスマニュアル発光を行うと きなどに利用します。







単独レシーバーに設定する

- (♠) 十字キーの(★) ボタンを押し ます。
- (◎) を回して (NDIXIDUAL) を選び、 〈 (●) を押します。
- ⇒ 表示パネルに〈 INDIVIDUAL RECVR 〉が 表示されます。
- → 発光モードが〈M〉に設定されます。

発光量を設定する

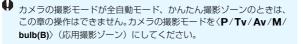
- 〈◆〉十字キーの〈図〉ボタンを押し ます。
- ◇ (◎) を回して発光量を設定し、〈 (●) > を押します。

🖥 単独レシーバーに設定したレシーバーは、センダーから発光モードの制御は受け ません。設定した発光量で常時発光します。

6

ストロボのカスタマイズ

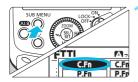
この章では、カスタム機能(C.Fn)、パーソナル機能(P.Fn)によるストロボのカスタマイズについて説明しています。



C.Fn / P.Fn: カスタム/パーソナル機能の設定方法

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。この機能をカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、470EX-AI特有のカスタマイズ機能です。

C.Fn: カスタム機能



カスタム機能画面にする

- 〈SUB MENU〉ボタンを押します。
- ◇ ◇ を回して 〈■C.F.■ 〉選び、〈 〉 を押します。
- → カスタム機能画面が表示されます。

設定する項目を選ぶ

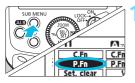
〈⑥〉を回して設定する項目(番号)を 選びます。

② 設定内容を変更する

- ●〈●〉を押します。
 - ⇒ 設定項目が表示されます。
 - ◇ 〉を回して希望する設定内容を選び、〈 〉を押します。

0; 22+ ⊕

P.Fn: パーソナル機能



パーソナル機能画面にする

- カスタム機能の手順1と同じ操作で 〈■PFn ■〉を選び、〈⑥〉を押します。
- → パーソナル機能画面が表示されます。

機能を設定する

カスタム機能の手順2、3と同じ操作で パーソナル機能を設定します。

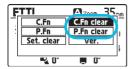
カスタム機能一覧

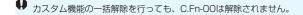
番号		項目		
C.Fn-00	m/ft	距離表示		
C.Fn-01	₽ azz	オートパワーオフ	p.85	
C.Fn-02	■■MODELING	モデリング発光		
C.Fn-08	₽ AF	AF補助光の投光		
C.Fn-10	2,4	レシーバーのオートパワーオフ時間	n 06	
C.Fn-11	P	レシーバーのオートパワーオフ解除	p.86	
C.Fn-13	\$ * <u>/</u> _	調光補正の設定方法		
C.Fn-21	;p_/=p_/;p_	配光特性		
C.Fn-22	-\ \' \.	表示パネルの照明	p.87	
C.Fn-23	₽.4	レシーバーの充電確認		

パーソナル機能一覧

番号		参照頁		
P.Fn-01	•	表示パネルの濃度		
P.Fn-02	₽ 🌣	表示パネル照明色:通常撮影	p.88	
P.Fn-03	₽.	表示パネル照明色:レシーバー	ï	
P.Fn-04	₽ />₽ AF	AF補助光の投光方式	p.89	
P.Fn-05	} ₽ Q QUICK	クイック発光		
P.Fn-06	⊕ DIRECT	ダイヤルでの設定変更	n 00	
P.Fn-07	4 / 4 / 4	最大バウンス角	p.90	
P.Fn-08	۵↔۵	バウンス角自動補正	p.91	
P.Fn-09	AIB 0°	手動バウンス設定	p.92	

カスタム機能/パーソナル機能一括解除





□ カメラのメニュー画面から、ストロボのカスタム機能を設定/一括解除することができます (p.70)。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-00: _____m/ft (距離表示)

表示パネルの距離表示を、メートル/フィートから選ぶことができます。

O: m (メートル表示) 1: ft (フィート表示)

C.Fn-01: ■ (オートパワーオフ)

ストロボを操作しないで約90秒放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。

O: ON (入) 1: OFF (切)

C.Fn-O2: MODELING (モデリング発光)

O: 🛇 (する: 絞り込みボタン)

カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光します。

1:4(する:テスト発光ボタン)

ストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

2: டூ/4 (両方のボタンで発光する)

カメラの絞り込みボタン、またはストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

3: OFF (しない)

モデリング発光を禁止します。



- ◆(AIB) スイッチが〈●) の位置に設定されているときは、カメラの絞り込みボタンでモデリング発光できないことがあります。AIBフルオート撮影時にモデリング発光を行うときは、C.Fn-02を1または2に設定して、ストロボのテスト発光ボタンでモデリング発光を行うことをおすすめします。
- カメラのカスタマイズ機能で、カメラのボタンに「絞り込み機能」を割り当てた状態で、C.Fn-02を0または2に設定したときは、割り当てたボタンでモデリング発光を行うことができます(EOS Mシリーズを除く)。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-O8: SAF (AF補助光の投光)

O: ON (する) 1: OFF (しない)

ストロボからのAF補助光の投光を禁止します。

🖥 C.Fn-08設定時に表示されるストロボのマークは、P.Fn-04(AF補助光の投光 方式/p.89) の設定に応じて変わります。

C.Fn-10: 💀 (レシーバーのオートパワーオフ時間)

光通信ワイヤレスレシーバー設定時に、オートパワーオフ機能が作動するま での時間を変更することができます。なお、レシーバーがオートパワーオフ状 態になると、表示パネルに〈繋⁵〉が表示されます。この機能はレシーバーごと に設定します。

0:60min (60分) 1: 10min (10分)

C.Fn-11: $\mathbb{R}^{\frac{2}{r}}$ \mathbb{R} (レシーバーのオートパワーオフ解除)

光通信ワイヤレスストロボ撮影時にセンダーのテスト発光ボタンを押すと、 オートパワーオフ状態になったレシーバーの電源を入れることができます。 オートパワーオフ状態のレシーバーが、この機能を受け付ける時間を変更する ことができます。この機能はレシーバーごとに設定します。

0:8h(8時間以内) 1: 1h (1時間以内)

C.Fn-13: 4½ (調光補正の設定方法)

O: 図+鍋 (ボタン+ダイヤル)

第(ダイヤルで直接設定)

〈◆〉十字キーの〈図〉ボタンを押さずに、直接〈⑥〉を回して調光補 正量や発光量を設定することができます。

C.Fn-21: → /= /→ (配光特性)

照射角を《**A**》(自動設定)に設定したときの、撮影画角に対するストロボ光 の配光(照射角)特性を変更することができます。

0: ≥ (標準)

撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

1: = (ガイドナンバー優先)

○設定時よりも写真の周辺部分が少し暗くなりますが、光量を優先したい ときに有効です。実際の撮影画角よりも、やや望遠側寄りに照射角が自動 設定されます。表示が〈**=鬼**〉になります。

2: 📭 (配光優先)

○設定時よりもストロボ撮影できる距離が少し短くなりますが、写真の周辺部分の光量低下を抑えたいときに有効です。実際の撮影画角よりも、やや広角側寄りに照射角が自動設定されます。表示が 〈♥♥〉になります。

C.Fn-22: - (表示パネルの照明)

ボタン、ダイヤルを操作すると表示パネルが照明されます。この照明の設定を変更することができます。

O: 12sec (12秒間照明)

OFF (照明しない)
 ON (常時照明)

C.Fn-23: 🛂 (レシーバーの充電確認)

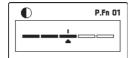
光通信ワイヤレスレシーバー設定時に充電が完了すると、レシーバーのAF補助光の投光部が点滅しますが、この点滅を禁止することができます。この機能はレシーバーごとに設定します。

O: ₹ /4 ※ (AF補助光点滅と4ランプ)

1:4※(4ランプ)

P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01: ① (表示パネルの濃度)



表示パネルの表示濃度を5段階で調整することができます。

P.Fn-02: - ○ (表示パネル照明色:通常撮影)

通常撮影(クリップオンストロボ撮影)時の表示パネル照明の色を設定する ことができます。

O: GREEN (緑)

1: ORANGE (オレンジ)

P.Fn-03: 🖳 🔆 (表示パネル照明色: レシーバー)

光通信ワイヤレスレシーバー設定時の表示パネル照明の色を設定することができます。

O: ORANGE (オレンジ)

1: GREEN (緑)

P.Fn-04: ♀ />♀ AF (AF補助光の投光方式)

AF補助光の投光方式を選ぶことができます。

O: ■ (赤外光方式)

赤外光方式のAF補助光を投光します(p.27)。被写体をファインダーの 中央に置いてピント合わせを行うことをおすすめします。

1: >■ (ストロボ間欠発光方式)

ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光します。

↓ ストロボ間欠発光方式のAF補助光は、カメラのメニュー画面から外部ストロボを 制御する機能を備えた、FOSデジタルカメラと組み合わせたときに投光されま す。なお、カメラの機種によっては、カメラのファームウェアのアップデートが 必要な場合があります。

P.Fn-05: 🔁 OUICK (クイック発光)

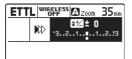
充電の待ち時間を短くするため、充電ランプが緑色(フル充電前)の状態で 発光させるか(クイック発光を行うか)どうかを設定することができます。連 続撮影時も機能します。

O: ON (する)

1: OFF (しない)



連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーにな りやすくなります。



〈 ● 〉を押して左図のような設定画面のとき に、下記の機能を、〈⑥〉を回すだけで直接設定 できるようにするかどうかを設定することがで きます。

0: OFF (しない)

通常の操作方法で機能を設定します。

1: ON (する)

〈◆〉十字キーで「調光補正量 | 「マニュアル発光量 | の項目を選び、〈⑥〉 を回すだけで、直接設定することができます。

P.Fn-07: 🙋 / 🖢 (最大バウンス角)

ALB フルオート撮影時における、上方向の最大バウンス角を設定することが できます。発光部が撮影者側に向くことがないように、最大バウンス角を制限 したいときは、2に設定します。

0:120° $1:140^{\circ}$ 2:90°



- ❶ □ 1設定時は、発光部が撮影者側に向いて発光することがあるため、発光部の向 きに注意してください。
 - P.Fn-O7はALBフルオート撮影時のみ機能します。なお、ALBセミオート撮 影時、またはALBフルオート撮影時に〈AMPLE〉を押して、ストロボにバウン ス角を記憶させた(登録した)ときは、P.Fn-Q7で設定した内容は機能しま せんん
 - P.Fn-07の設定を変更したときは、再度測距動作を行ってください(p.49)。



□ 1設定時に120°を超えるバウンス角が自動設定されるときは、発光部が180° 回転してから設定されることがあります。

〈ALB-F〉ALBフルオート撮影、〈ALB-S〉ALBセミオート撮影時に、カメラの 構え方(姿勢)を変えたときに、バウンス角をどのような方法で自動補正する かを設定することができます。

0: ₫\$×≥

シャッターボタンをダブルクリック(短い間隔で連続 2 回半押し)する と、バウンス角の補正動作が行われます。

1: AUTO

カメラの測光タイマーが作動しているときは、(シャッターボタンを半押 ししなくても) バウンス角の補正動作が自動的に行われます。

2: n 5×1

シャッターボタンの半押しを行うと、バウンス角の補正動作が行われます。

↓ 1、2設定時は、シャッターボタンだけでなく、カメラのいずれかのボタンを押

P.Fn-09: (ALB 0° (手動バウンス設定)

〈▲IB〉 バウンスモード切り換えスイッチが〈0°〉に設定されているときに、 手動でバウンス角を設定できるようにするかどうかを設定できます。

0:0°

手動バウンス撮影 (バウンス角の手動設定) はできません。バウンス角の手動設定を行ったあと、シャッターボタンを半押しすると、発光部が正面の位置に戻ります。

1: MANUAL BOUNCE

手動バウンス撮影を行う(バウンス角を手動設定する)ときに設定します。

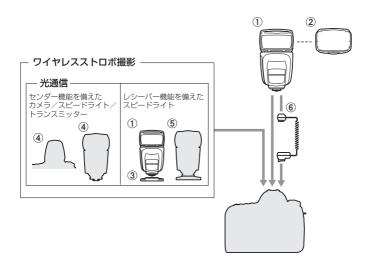
■ 1に設定しても、AI.Bフルオート撮影、AI.Bセミオート撮影のときは、カメラの構え方(姿勢)を変えると、バウンス角の補正動作が行われます。

7

資料

この章では、ストロボシステムやよくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせについて説明しています。

470EX-AIのシステム



- ① スピードライト470EX-AI
- (2) バウンスアダプター SBA-E4 (470EX-AIIC付属)
- ③ ミニスタンド (470EX-AIに付属)
- ④ 光通信ワイヤレスセンダー機能を備えた機器

600EX II-RT、600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、90EX、MT-26EX-RT、MT-24EX、MR-14EX II、MR-14EX、ST-E2、および内蔵ストロボによる光通信ワイヤレスセンダー機能を備えたEOSデジタルカメラ

- ⑤ 光通信ワイヤレスレシーバー機能を備えたスピードライト 600EX II-RT、600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、 430EX III-RT、430EX III、430EX II、430EX、420EX、320EX、 270EX II
- (6) オフカメラシューコードOC-E3 470EX-AIをカメラから約60cmまで離して使用することができます。



- ⑤の中で発光グループ (A, B, C) の切り換え機能を備えていないスピードライトを使用したときは、光通信ワイヤレス撮影時に発光グループAのレシーバーとして使用できます (発光グループB, Cのレシーバーとしては使用できません)。
- AI.Bフルオート撮影時に、オフカメラシューコードOC-E3は使用しないでください(適切なバウンス角が自動設定されません)。
- 470EX-AIをスピードライトブラケットSB-E2(別売)などに取り付けて使用しないでください。ブラケットにしっかり固定できず不安的になったり、AIバウンス時に発光部がブラケット部分にぶつかる可能性があります。

👸 温度上昇による発光制限について 💻

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行う と、発光部や電池、電池室付近の温度が高くなることがあります。

繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、発光 間隔が段階的に長くなります。その状態でさらに繰り返し発光を行うと、自 動的に発光制限が行われます。

なお、発光制限中は、温度上昇を表す警告表示が行われ、発光間隔(ストロボ撮影できる間隔)が強制的に約8秒(レベル1)、約20秒(レベル2)になります。

温度上昇警告

ストロボ内部の温度が上昇すると、2段階で警告表示が行われます。レベル1の状態でさらに繰り返し発光を行うと、レベル2の状態になります。

表示	レベル 1 (発光間隔:約8秒)	レベル2 (発光間隔:約20秒)
マーク	;	;
表示パネル照明	赤色(点灯)	赤色(点滅)

連続発光回数と休止時間

警告表示(レベル1)までの連続発光回数と、通常のストロボ撮影ができるようになるまでに必要な休止時間の目安は、次のとおりです。

機能		警告表示(レベル1)までの 連続発光回数(目安) 照射角			必要 休止 時間
	14mm	24mm	28mm	35mm 以上	(目安)
連続フル発光 (p.17)	45回以上		40分		
モデリング発光 (p.38)	35回以上		40回以上		以上

↑ 注意

連続発光を行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。

ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、 発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付近が高 温になり、やけどの原因になる恐れがあります。



- ♠ 発光制限中に電池室ふたの開閉を行わないでください。発光制限が解除され るため大変危険です。
 - レベル1の警告が表示されていなくても、発光部の温度が上昇し始めていると きは、発光間隔が長くなります。
 - レベル2の警告が表示されたときは、40分以上休止してください。
 - レベル1の警告が表示されたあと、発光を休止しても、レベル2の警告が表示 されることがあります。
 - 高温下でストロボ撮影を行ったときは、前ページの表に示した回数よりも早 く発光制限が行われることがあります。
 - 発光回数に関する注意については、17ページ(連続発光)、39ページ(モデ リング発光)を参照してください。
 - 温度上昇などの環境要因により、まれに発光しないことがあります。
 - バウンスアダプターを使用したときは、警告表示までの発光回数がやや少な。 くなります。
 - C.Fn-22-1 設定時は(p.87)、発光部の温度が上昇しても、表示パネルの赤 色照明による警告表示は行われません。

故障かな?と思ったら

「ストロボが故障したのかな?」と思ったら、下記の例を参考にしてストロボをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

●通常撮影

電源が入らない

- 電池が正しい向きに入っているか確認してください(p.18)。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください(p.18)。
- 新しい電池に交換してください。

ストロボが発光しない

- 取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください(p.20)。
- 約30秒たっても〈SHARGE〉の表示が消えないときは、電池を交換してください(p.18)。
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点(p.10)を乾いた布などで拭いてください。
- 連続発光を短時間に繰り返し行い、発光部の温度上昇により発光制限が行われているときは、発光間隔が長くなります(p.96)。

電源が勝手に切れる

ストロボのオートパワーオフ機能が働いています(p.22)。カメラのシャッターボタンを半押しするか、ストロボのテスト発光ボタンを押してください(p.21)。

露出アンダー/オーバーになる

- 主被写体が暗い/明るいときは、調光補正を行ってください (p.30)。
- 画面内に反射率が高いものがあるときは、FEロックを行ってください (p.31)。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほど、 ガイドナンバーが低下します。被写体に近づいて撮影してください (p.32)。

写真の下側が暗い

- 被写体から0.7m以上離れて撮影してください。
- レンズにフードが付いているときは取り外してください。

写真の周辺が暗い

- 照射角の設定を〈▲〉(自動設定)にしてください(p.34)。
- 照射角を手動設定するときは、撮影画角よりも広い照射角を設定してください(p.34)。
- C.Fn-21-1に設定されていないか確認してください(p.87)。

写真が大きくブレている

● 暗い場所で〈Av〉絞り優先AEモードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に(シャッター速度が遅く)なります。三脚を使用するか、〈P〉プログラムAE、または全自動モードで撮影してください(p.25)。なお、[Avモード時のストロボ同調速度]で同調速度を設定することもできます(p.68)。

照射角が自動設定されない

- 照射角の設定を〈▲〉(自動設定)にしてください(p.34)。
- 取り付け脚をアクセサリーシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください(p.20)。

照射角が手動設定できない

- バウンスアダプターを取り外してください(p.63)。
- ワイドパネルを収納してください(p.35)。
- AI.Bフルオート撮影時は、照射角の手動設定はできません (p.52)。

機能が設定できない

- カメラの撮影モードを〈P/Tv/Av/M/bulb(B)〉(応用撮影ゾーン) に設定してください。
- ストロボの電源スイッチを〈LOCK〉ではなく、〈ON〉の位置にして ください(p.21)。

ストロボが連続的に発光する

AFでピント合わせを行ったときに、ストロボが連続的に発光するときは、P.Fn-04-1に設定されていないか確認してください(p.89)。

●バウンス撮影

発光部が勝手に動く

- ストロボが初期状態のときに、発光部が正面(0°)以外の位置でカメラのシャッターボタンを半押しすると、発光部が自動的に動いて、発光部が正面(0°)の位置に設定されます。
- AI バウンス機能が働いています。AI バウンス機能を使用しないときは、〈AIB〉スイッチを〈O°〉の位置に設定してください(p.42)。
- ◇ ANSE > ボタンを押して、ストロボにバウンス角を記憶させた(登録した)あと、発光部の向きが変わってしまったときは、カメラのシャッターボタンを半押しすると、記憶した位置に戻ります。

"AI.BO"と表示される/発光部が動作しない

- ストロボをカメラに取り付けていないときは、("AI.BQ" のアニメーション表示が行われ)発光部のAIバウンス動作は行われません。
- カメラの構え方(姿勢)を変えたときは、シャッターボタンをダブル クリック(短い間隔で連続2回半押し)すると、バウンス角の補正動 作が行われます。

AI.B フルオート時にカメラの絞り込みボタンを押しても 発光部が動作しない

使用しているカメラの絞り込みボタンが、AI.Bフルオート測距開始ボタンとして機能するかどうか確認してください(p.46)。

カメラの絞り込みボタンを押すとモデリング発光する

使用しているカメラの絞り込みボタンが、AI.Bフルオート測距開始ボタンとして機能するかどうか確認してください(p.38、46、85)。

警告が表示される

警告表示については、52ページを参照してください。

照射角が手動設定できない

AI.Bフルオート撮影時、およびバウンスアダプター装着時、ワイドパネル使用時は、照射角の手動設定はできません。

バウンス角が手動設定できない

● 手動バウンス撮影を行うときは、61ページを参照してください。

露出アンダーになる

- バウンス撮影時は、被写体に届く光の量が少なくなるため、露出アンダー(不足)になりやすくなります。できるだけ被写体に近づいて撮影したり、カメラのISO感度を上げたり、レンズの絞りを開いて撮影するなどの対応を行ってください。
- ストロボ光をバウンスさせる天井や壁までの距離が離れているときや、天井が暗い色のとき、天井に段差や凹凸があるときは、被写体に光が十分に届かず、適切な露出で撮影できないことがあります。

被写体の色がおかしい

ストロボ光をバウンスさせる反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けたり、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。ストロボ光をバウンスさせる天井や壁は、無地の白に近い色をした反射率の高いものを選んでください。

モデリング発光ができない

使用するカメラにより、カメラの絞り込みボタンが〈ALB〉フルオートバウンス測距開始ボタンとして機能します。詳しくは46、85ページを参照してください。

●光通信ワイヤレスストロボ撮影

レシーバーが発光しない

- レシーバーを〈レシーバーを 〈に設定してください (p.74)。
- レシーバーの通信チャンネルを、センダーと同じ番号に設定してください(p.74)。
- レシーバーがセンダーの通信可能範囲内にあるか、確認してください (p.72)。
- レシーバーのワイヤレス受信部をセンダーに向けてください(p.72)。
- センダーからできるだけ見通しの良い場所に、レシーバーを設置してください。
- センダーとレシーバーの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります。
- カメラの内蔵ストロボをセンダーとして使用するときは、カメラの内蔵ストロボを上げて、カメラの[内蔵ストロボ機能設定]の画面で[ワイヤレス機能]の設定を行ってください。

主な仕様

■型式

型式......E-TTL II/E-TTL自動調光

クリップオンタイプストロボ

使用カメラEOS・Aタイプカメラ (E-TTL II/E-TTL 自動調光)

* EOS・Bタイプカメラ使用時は自動調光撮影不可

■発光部

ガイドナンバー......約47 (照射角 105mm設定時、ISO100·m)

* バウンスアダプターなし

照射角.......レンズ焦点距離24~105mm(ワイドパネル使用時

14mm) の撮影画角に対応

自動設定

(撮影画角と画面サイズに応じて照射角を自動設定)

手動設定

バウンス方式AI.Bフルオート (AI.B-F)、AI.Bセミオート (AI.B-S)、手

動

バウンス角......上: 120°、左: 180°、右180°

バウンスアダプター......付属

閃光時間......1/1発光:約1/950秒 1/16発光:約1/2240秒

1/2発光:約1/1210秒 1/32発光:約1/2400秒

1/4発光:約1/1700秒 1/64発光:約1/2690秒 1/8発光:約1/2100秒 1/128発光:約1/2700秒

■露出制御

(诵常発光時)

露出制御方式E-TTL II/E-TTL 自動調光、マニュアル発光

(EF50mm F1.4 クイック発光:約0.7~14.4m (ガイドナンバー20.2時)

使用時・ISO100) ハイスピードシンクロ:約0.7~12.5m(1/250秒時) 調光補正......1/3、1/2段ステップ±3段

FFロック......カメラのマルチファンクションボタン、FFロック/AF

ロックボタンによる

ハイスピードシンクロ......可能

マニュアル発光......1/1~1/128発光(1/3段ステップ)

モデリング発光.....カメラの絞り込みボタン、ストロボのテスト発光ボタンによ

る

■ストロボ充電

発光間隔 (充電時間)........通常発光:約0.1~5.5秒、クイック発光:約0.1~3.9秒

* 単3形アルカリ乾電池使用時

■AF補助光

方式……パーソナル機能で赤外光方式、ストロボ間欠発光方式を切り

換え可能

対応AF......TTL二次結像位相差AF

1~19点AFに対応(赤外光方式/レンズ焦点距離28mm

以上)

ファインダー撮影、およびライブビュー撮影/動画撮影時の

クイックAF (クイックモード) に対応

有効距離......中央:約0.7~10m、周辺:約1~5m

■光通信ワイヤレスレシーバー機能

通信チャンネル Ch. 1~4

レシーバー設定 発光グループA. B. C

受信角......センダーに対して左右約±45°、上約25°、下約20°

充電確認......充電ランプ点灯、AF補助光投光部点滅により充電完了の確認が可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能 10種

パーソナル機能9種

■電源

本体電源.......単3形アルカリ乾電池 4本

* 単3形ニッケル水素電池使用可能

発光回数......約115~800回

* 単3形アルカリ乾電池使用時

オートパワーオフ 約90秒放置で電源 OFF

* レシーバー設定時:約60分

■大きさ・質量

■動作環境

使用可能温度 0 $^{\circ}$ $^{\circ}$ $^{\circ}$ $^{\circ}$ + 45 $^{\circ}$ 使用可能湿度 85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

- 1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
- 2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、で使用の消耗品や付属品をで使用いただけないことがあります。
- 3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

製品に表記している図記号について 直流

使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分してください。

ガイドナンバー (ISO100·m/約)

● 通常発光 (フル発光時) /クイック発光

照射角 (mm)	14	24	28	35
通常(フル)発光	14.0	25.0	26.0	29.0
クイック発光	フル発光時の約1/2~1/6と同じ			

照射角 (mm)	50	70	80	105
通常(フル)発光	33.0	40.0	42.0	47.0
クイック発光	フル発光時の約1/2~1/6と同じ			

● マニュアル発光

発光量		照射角	(mm)			
光兀里	14	24	28	35		
1/1	14.0	25.0	26.0	29.0		
1/2	9.9	17.7	18.4	20.5		
1/4	7.0	12.5	13.0	14.5		
1/8	4.9	8.8	9.2	10.3		
1/16	3.5	6.3	6.5	7.3		
1/32	2.5	4.4	4.6	5.1		
1/64	1.8	3.1	3.3	3.6		
1/128	1.2	2.2	2.3	2.6		

発光量		照射角	(mm)		
九儿里	50	70	80	105	
1/1	33.0	40.0	42.0	47.0	
1/2	23.3	28.3	29.7	33.2	
1/4	16.5	20.0	21.0	23.5	
1/8	11.7	14.1	14.8	16.6	
1/16	8.3	10.0	10.5	11.8	
1/32	5.8	7.1	7.4	8.3	
1/64	4.1	5.0	5.3	5.9	
1/128	2.9	3.5	3.7	4.2	

B タイプカメラとの組み合わせ

スピードライト470EX-AIと、Bタイプカメラ(A-TTL/TTL自動調光に 対応したEOSフィルムカメラ)を組み合わせたときに、使用できる機能と 使用できない機能は以下の通りです。

<u>Bタイプカメラに取り付けたときは、</u>ストロボの表示パネルに〈ETTL〉と表示されますが、自動調光撮影はできません。

● Bタイプカメラで使用できる機能

- マニュアル発光
- 後幕シンクロ
- Al.Bセミオート

● Bタイプカメラで使用できない機能

- E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光
- ストロボ調光補正
- FEロック
- ハイスピードシンクロ
- クイック発光
- モデリング発光
- ALBフルオート

索引

英数字
12秒/16秒タイマー4
18%標準反射板37
AF補助光27, 86, 87, 89
AI.Bセミオート42, 45, 56
AI.Bフルオート42, 43, 46, 48
AI.Bランプ54, 59
AIバウンス41, 42
ANGLE SET45, 54, 57
Avモード時の
ストロボ同調速度68
Av(絞り優先AE)25
Aタイプカメラ2
Bタイプカメラ110
C.Fn82, 83, 85
E-TTL II/E-TTL
自動調光24, 25
E-TTL II (調光方式)68
FEロック (FEL)31
INDIVIDUAL RECVR 13, 79
LOCK22
M(マニュアル発光)36
M(マニュアル露出)25
P.Fn82, 83, 88
Р (プログラムAE)24
TTL自動調光110
Tv(シャッター優先AE)25
Zoom34

あ		
	アクセサリー アクセサリーシュー 後幕シンクロ	20 33
	安全上のご注意70, 一括解除70, 色温度情報通信 応用撮影	84
	ゾーン29, 65, 71, オートパワーオフ22, 85, 温度上昇	86
カ		
	ガイドナンバー	10
	構え方(姿勢) 44, 45, 51, 画面サイズ対応自動ズーム 機能設定機能設定	26 65
	距離表示	89 96
さ	<u> </u>	
	先幕シンクロ	63 94
	シャッター速度	25

充電21	通信チャンネル74
充電ランプ21, 49, 77, 89	テスト発光21, 77
手動バウンス61, 92	電源スイッチ21
照射角34,87	電池18
初期化40,69	同調速度25, 68
シンクロ設定68	トランスミッター94
ズーム34	は
スタンド15	パーソナル機能
ストロボ機能設定65	(P.Fn)82, 83, 88
ストロボ制御66	配光特性87
ストロボ同調速度25, 68	ハイスピード
ストロボ配置72	シンクロ32, 78
ストロボメータード	バウンス 14, 41
マニュアル37	アダプター15, 63
セミオート	手動61, 92
(Al.B-S)42, 45, 56	セミオート42, 45, 56
全自動ストロボ撮影24	測距開始ボタン43, 46, 49
測距開始ボタン43, 46, 49	フルオート42, 43, 46, 48
÷-	バウンス角 61
縦位置44, 45, 51, 91	上方向14
ダブルクリック51, 57, 91	最大角90
単独レシーバー	左右方向14
	設定ボタン45, 54, 57 補正44, 45, 51, 91
調光方式	発光回数
調光補正30, 68, 78	発光間隔18,96
調光レベル12,30,37	発光グループ76. 78
調光連動範囲12,24	
通常発光18, 109	発光制限
通信可能距離72	発光部10
	発光モード12.13.24.36.68

36
.71
.12
, 87
.88
.88
, 48
, 79
. 75
38
, 71
, 71 , 87
, 87
, 87 74
, 87 74
, 87 74 22
, 87 74 22
, 87 74 22 35

Canon

キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 〒 108-8011 東京都港区港南 2-16-6

●製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくある問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。 インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOS ホームページ : canon.jp/eos

EOS・サポートナビページ : canon.jp/eos-navi

CANON iMAGE GATEWAY: ptl.imagegateway.net

※ お雷話でのお問い合わせの場合

お客様相談センター 050-555-90002

受付時間: 9:00 ~ 18:00

(1月1日~1月3日は休ませていただきます)

- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
- ※ IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

●修理のお問い合わせ・お申し込み

- ・らくらく修理便(引取修理)のお申し込み:canon.jp/repair
- ・電話でのお申し込み: 050-555-99077



本書の記載内容は2017年12月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。 なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。